

令和6年度 自己点検・自己評価

愛北看護専門学校

本校では、令和4年度のカリキュラム改正において、『地域の人々の暮らしを理解する』『専門職業人としての意識向上を図る』という新たな視点を加え、教育理念・教育目的・教育目標を深化させた新カリキュラムを導入しました。この新カリキュラム導入から3年が経過し、最初の卒業生を送り出すにあたり、教育活動の自己点検・自己評価を実施しました。

評価は、9つの大項目と66の質問項目から構成され、新人教員を含む全教員が自身の教育活動を振り返り、評価を行いました。評価尺度：3.良くあてはまる、2.大体あてはまる、1.あてはまらない。評価結果は各評価項目の平均値を分析し、次年度の教育活動における改善課題を抽出するために活用します。

評価項目(大項目)	平均値
I 教育理念・目的	2.8
II 教育目標	2.8
III 教育課程経営	2.6
IV 教授・学習・評価過程	2.4
V 経営・管理過程	2.5
VI 入学	2.5
VII 卒業	2.4
VIII 地域社会/国際交流	2.0
IX 研究	1.6



I 教育理念・教育目的

評価項目(質問)	平均値
1 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特色を示し、かつそれは法との整合性があるか	2.9
2 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっているか	2.8
3 看護、看護学教育、学生観について、教師の教育活動の指針になるように明示され、実際に指針となっているか	2.7
4 教育理念・教育目的は、要請する看護師等の質を保証するために、どのような人材育成（教育環境・方法）をしたいのかを明確に示している	2.9
5 卒業時点において育成する看護師等がどのような資質を有しているのかが明示され、その資質が、社会に対する看護の質を保障するのに妥当であるか	2.8
6 教育理念・教育目的は、学生が卒業時点で看護師として持つべき資質を明示している	2.9

【評価】

全体概況

カリキュラム改正により、教育理念・目的・目標が明文化され、全教員が教育方針を共有するための会議が定期的に開催されています。しかし、学生への理解浸透を考えると、教員間の共有だけでは不十分となるため、学生に対しても、教育理念・目的・目標を継続的に周知・共有していくことが不可欠です。

II 教育目標

評 価 項 目 (質問)		平均値
1	教育理念・教育目的と教育目標が一貫しているか	2.9
2	教育目標において、目標内容と到達レベルが対応し、具体的で実現可能な目標として明示しているか	2.8
3	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として、教育目標を設定しているか	2.7
4	教育目標は、設定した教育内容を網羅し、かつ最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとして示しているか	2.9
5	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長発達を促すための側面から教育目標を設定しているか	2.8

【評価】

ディプロマポリシーに基づく教育

ディプロマポリシーに基づき、学年別の到達目標を設定し、学生への周知と教育活動を実施しています。年度末評価では、学生一人ひとりの成長度を確認しています。

カリキュラムポリシーに沿った演習

教員間で連携を図りながら、カリキュラムポリシーに沿って、創意工夫を凝らした演習課題を実践しています。

III 教育課程経営

評 価 項 目 (質問)		平均値
1	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価の関連性を明確に持ち、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っているか	2.5
2	教育理念-望ましい卒業生像-本会のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2.8
3	科目構成、単元構成の考え方と根拠を明確にして構成され、その考え方は教育理念・目的、教育目標との整合性をもち、構成された科目は看護実践者を育成するのに妥当であり、かつ養成所の特色をあらわしているか	2.7
4	単位履修の方法とその制約が教師・学生の双方がわかるように明示し、その方法が学生の単位履修の支援となっているか	2.5
5	科目の配列は、単位履修と看護実践者になるために養成所が設定したその質を維持して修得できるような配列になっているか	2.7
6	単位認定の基準（設定）および方法において、看護専門職に必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、また、妥当であるか	2.8
7	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えているか	2.8
8	教育課程を評価する体系が整っており、また、結果の活用における倫理的規定が明確になっているか	2.5
9	担当科目や担当時間数の関連から、教員の専門性が活かされ、授業準備に関する時間が保障され教員の専門性を教授できる体制を整えているか	2.1
10	教育課程の運営の実践者である教員が自ら成長できるための相互研鑽、自己研鑽のシステムを整えているか	2.4
11	臨地実習施設は、養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解し、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えているか	2.5
12	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員がそれぞれの役割を明確にし、協働体制を整えているか	2.4
13	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、学生への指導を計画的にしているか	2.7
14	臨地実習における学生が関係する事故を把握、分析し、安全教育、安全対策を計画的にしているか	2.5

【評価】

学修・実習要項とシラバス

学修要項や実習要項を通じて、科目目標、内容、評価方法・配点等を明確に示しています。また、シラバスについては、年度末に担当教員が評価を行い、課題改善に取り組んでいます。

実習指導連携の強化

臨地実習では、臨地実習指導者との連携を強化するため、年8回の定例会議を実施しています。さらに、実際の臨地実習指導においては、教員と指導者が密に連携し、学生の成長に合わせた個別指導の方法を共有しています。

教員業務の改善と教育活動の充実

No.9 は平均評価値が最も低いことから、教員一人ひとりの業務改善に取り組むとともに、教員グループによる教育活動の時間を確保する必要があります。

IV 教授・学習・評価過程

	評価項目(質問)	平均値
1	当該授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容のまとめりとして考えているか	2.6
2	授業内容のまとめりづくりの考え方は、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べているか	2.7
3	授業内容のまとめりは、看護学の教育内容として妥当性がある内容となっているか	2.5
4	当該授業内容と他の授業内容との関連において、重複や整合性、発展性などについて明確になっているか	2.3
5	履修形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容のまとめりづくりに応じた形態を選択しているか	2.5
6	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践しているか	2.3
7	当該授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援しているか	2.3
8	学生に対し効果的な教育指導を行うにあたり、教員間でどのような協力体制で行っているか	2.3
9	評価と指導の表裏一体性を踏まえた評価計画が立案・実施され、評価結果は、実際に授業が改善されているか	2.2
10	可能な限り、学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れ、目標の達成状況を明確に捉えているか	2.3
11	評価の方法について、特に単位認定のための評価については、学生に公表（認定基準等）し、公平性があるか	2.5

【評価】

全体概況

No.1, 2, 3, 5, 11 は平均評価値 2.4 以上であり、各教員が学校の教育方針を意識した授業運営を行っていることが伺えます。特にNo.11 については、科目評価の公平性や公表に関して学校全体で積極的に取り組んでいることが評価できます。一方、No.4, 6, 7, 8, 9, 10 は評価値が 2.3 以下であり、授業展開や授業内容の精選などに十分な時間を確保できない状況下で、教員が努力している現状が示唆されます。

パフォーマンス評価

パフォーマンス評価は、評価者の解釈に左右される側面があるため、評価基準や具体的内容の共有・検討に十分な時間を確保し、公平性を維持する努力を今後も継続する必要があります。

教育の継続的な改善

教育活動は、学生の特徴や環境に合わせて工夫しながら実践する必要があるため、各教員が教育理念・目的・目標に沿って、教育内容のブラッシュアップを継続することが重要です。

V 経営・管理過程

評 価 項 目 (質問)		平均値
1	養成所の設置、教育理念、教育目的、教育課程運営、教育評価、および養成所の管理運営に関する管理者の考え方を、設置者の意思との一貫性を持って明示し、かつ教職員は理解しているか	2.2
2	組織体制は養成所の教育理念・目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確であり、かつ組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるように整えているか	2.5
3	組織の構成と教職員の任用、および、教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・目的を達成するために整合性を持っているか	2.5
4	養成所の財政基盤をどのように確保しようとしているかについて明確な考え方をもち、学習・教育の質の維持・向上につながるようになっているか	2.5
5	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解し、それぞれの観点から財政についての意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか	2.3
6	学習・教育環境について、管理者としてどのような考え方をもち整備しようとしているかを示し、その考え方に基づいて整備計画を立案し、実施しているか	2.5
7	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備し、また、医療・看護の発展や学生層の変化にあわせて、整備・改善できるようになっているか	2.7
8	学生および教職員にとっての福利厚生施設設備は、養成所が設置されている地域環境との関連から検討し、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備しているか	2.6
9	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか	2.6
10	教育・学習活動に関する関係者への情報提供を行うことによって、その協力・支援を得ているか	2.5
11	広報活動は、看護専門職を育成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか	2.5
12	養成所の運営は明確な将来構想の基に、中・長期計画、短期計画、毎年の運営計画・実施・評価は整合性をもっているか	2.5
13	自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確に持っているか	2.1
14	養成所の自己点検・評価体制を整え、運用し、その機能を養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、養成所の教育理念、目的、目標を維持・改善しているか	2.3

【評価】

全体概況

No.7, 8, 9 は平均評価値が高く、教員が学生一人ひとりに深い関心を寄せ、個々の特性に応じた教育を工夫していることが伺えます。一方、No.1, 13 は平均評価値が低いことから、学校全体の目標への関心や、学校評価に関する知識・意識を高める必要があります。そのため、目標提示の機会を増やし、個々の評価意識を高めるための取り組みを学校全体で推進します。

VI 入学

評 価 項 目 (質問)		平均値
1	教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜についての考え方を述べているか	2.5
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の観点から分析し、検証しているか	2.4

【評価】

選抜の公平性

選抜においては、学力考査だけでなく面接も重視しており、本会職員による複数名の面接官による面接を実施することで、受験者への公平性に配慮しています。

入学者選抜後の分析と活用

入学者選抜後の分析では、成績、学習姿勢、退学率などのデータを基に、教育方法の検討に活用しています。今後も、入学者の成長を支援するための分析方法を検討していきたいと考えています。

VII 卒業

評 価 項 目 (質問)		平均値
1	卒業生の到達状況、就職・進学状況を分析した結果は、教育理念・教育目標と整合性があるか	2.4
2	卒業生の就職先での評価を把握し、問題を明確にし、教育を改善するために、就職先との情報交換や調査の実施などができる体制が整っているか	2.4
3	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理し、教育理念、教育目標、授業の展開に活用しているか	2.4
4	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、それを計画的に行っているか	2.4

【評価】

就職支援と卒業後の連携

愛知県厚生連の組織理念を理解した卒業生が、愛知県内の厚生連病院へ就職しており、配属後も病院と学校が連携し、成長をサポートできる体制を構築しています。

卒業後の精神的フォロー

卒業後3か月(6月中旬)に「里帰り教室」を開催し、精神面でのフォローを実施しています。参加率は90%以上を維持しています。

成長のフィードバック

卒業時と里帰り教室において、技術習得度および社会人基礎力チェックを実施し、成長に関するフィードバックを提供しています。

VIII 地域社会/国際交流

評 価 項 目 (質問)		平均値
1	社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っているか	2.5
2	養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っているか	2.4
3	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れているか	2.5
4	国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか	2.4
5	国際的視野を広げるための自己学習システムが整っているか	1.6
6	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制があるか	1.5
7	留学や海外に置いて看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制があるか	1.3

【評価】

地域交流活動

地域住民が利用する病院の庭や病棟内のバックヤードでの活動、入院患者との会話など、月1回半日の学生ボランティア活動を実施し、地域交流の一翼を担っています。

国際的視野の広がり

英語の授業では、外国人講師による実践的な医療英会話を中心に展開しています。英語に自信がない学生も、楽しみながら積極的に参加できるよう、ロールプレイやディスカッションなどのグループ演習を工夫しています。

平均評価値

No.5, 6, 7は平均評価値が低い状況です。特にNo.6については、入学試験資格審査制度を導入しており、実績も1例ありますが、評価向上のための更なる取り組みが必要です。

IX 研究

評価項目（質問）	平均値
1 教員の研究活動は保障（時間的、財政的、環境的）されているか	1.8
2 教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか	1.5
3 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるかか	1.5

【評価】

全体概況

全体的に平均評価値は低い傾向にあります。これは、学生の教育を優先しているため、学会での研究発表の実績が少ない現状によるものと考えられます。日々の教育活動では、各教員は授業やカンファレンスなどの授業研究には精力的に取り組んでいます。

カテゴリー別の分析・評価に基づき、次年度の教育活動をより質の高いものとするために、教職員全体で協力して改善に取り組んでいきます。